



辰年

十二支中唯一の空想の動物

十二支の5番目の十支である辰（たつ）は、十二支中のただ一つの空想上の動物です。一般には「竜」と書き、「タツ」または「リュウ」と呼ばれています。

竜の伝説は世界各地に分布しており、さまざまな形で伝えられています。

その姿は、おおむねヘビやトカゲのような体に、角をもった猛禽類（わし・たか・はやぶさ・ふくろうなどの、肉食の鳥。くちばしや爪がするどい。）か猛獣の頭、それに翼を組み合わせた形で描かれています。また、竜の性格や役割も、悪役になったり、神聖な動物として扱われたりと、地域によってさまざまです。

ごあんない

- (P 2~3) ……年頭のごあいさつ
- (P 4~13) ……まちのわだいほか
- (P 14~15) ……こんにちは保健婦です
- (P 16~17) ……みんなのひろば
- (P 18~21) ……くらしの情報

水や雨をつかさどる

竜神・水神のシンボル

日本では、竜は神聖視されており、古代神話にも竜が登場しています。

『古事記』と『日本書紀』には、トヨタマヒメの産屋での変身をヒコホホデノミコトが見る下りがありますが、古事記では八尋のワニになったとあり、日本書紀には「竜となりぬ」と記されています。

また、竜は雲を呼び、雨を降らせるとして残っています。

困難を乗り越えて躍進する年へ

「竜」のつく言葉では、「竜頭蛇尾」りゅうとうだび「画竜点睛」がりょうてんせい「登竜門」など、中国の古事に由来する言葉がよく知られています。

「登竜門」とは、黄河上流の急流の峡谷、竜門をのぼりきった魚が竜に変わったという伝説から、成功への一歩となる難関と言う意味があります。

竜年にあやかり、今年は難関を突破し、飛躍の年にしていきたいものです。



福岡県金田町